



目 次	
●副会長あいさつ	1
●県教頭会ブロック研究大会に向けて	2～3
●全公教静岡大会参加報告	4
●郡市教頭会ネットワーク	5～6
●新入会員の声	7～8
●特集「キャリア教育」	9
●随想	10



多様性の中の統一

新潟県小中学校教頭会

副会長 **黒田茂男**

(長岡市立表町小学校)

2011年サッカー女子W杯ドイツ大会でなでしこジャパンが優勝という快挙を成し遂げてから4年、再び2015年W杯カナダ大会の決勝に駒を進めたなでしこジャパンは、周囲の心配をよそに見事に準優勝という輝かしい結果を残しました。佐々木則夫監督はいかなるチームマネジメントを行い、戦える集団をつくりあげたのでしょうか。佐々木監督は「多様性の中の統一」を意識して、①常にトライ&エラーを繰り返す、②タックマンモデルの遂行、③あえて距離を置き引き出す、という三カ条を実践してチームを育てたそうです。

国内や海外の各リーグで活躍する選手の集合体は、多様なサッカースタイルをもつ個性あふれた選手ばかりです。組織としてチームワークを強調するかわら、個々が培った世界基準のスタイルをチームに混ぜる「多様性の中の統一」が難しかったと述べています。グループリーグでは、全て1点差の勝利でした。佐々木監督の言葉を借りれば「問題ないが一番の問題」、大勝よりもトライ&エラーで課題を発見することを最優先したそうです。

タックマンモデルとは、アメリカの心理学者ブルース・タックマンが提唱する組織が形成されてから成果をあげるまでのプロセスのことです。

Forming (形成期)

顔を合わせたばかりでお互いのことが分からず、探り合っている段階。

Storming (混乱期)

共通の目標に向かって意見を出し合う段階。考え

方の違いによって、混乱したり対立したりする時期でもある。

Norming (統一期)

様々な意見が出された混乱期を経て、目的や役割がはっきりとする段階。内部の関係性が安定し、チームが一つになっていく。

Performing (機能期)

結束力が生まれ、一丸となって目標達成に向かう。前述の段階を踏んだことにより、チームの能力が最大限に発揮される。

組織(チーム)は、ただメンバーを集めただけで機能はしません。目標があり、試行錯誤があり、失敗を重ねながら共通理解が生まれて成果が生まれます。W杯のグループリーグを戦っている時点のなでしこは、混乱期から統一期に向かう過程であったと佐々木監督は言っていました。

私たちにとってのチームである職員も多様な価値観が混在する集団と言えます。様々な教育課題に向かう高度な組織を作り上げようとするならば、多様な観点から意見を出し合う時間、そして対応策をチーム内で共有する時間が必要であると言えます。混乱期を省略して「一丸」だけを強調してしまったり、見かけだけはまとまりのある集団に見えて困難に立ち向かうことができない脆弱なチームになる危険性があります。「多様性の中の統一」はレベルの高い目標ではありますが、学校運営のコーディネーターとして力を発揮していきましょう。

県教頭会ブロック研究大会に向けて



上越ブロック 研究大会

上越ブロック別研究大会実行委員長

松野 和美

(妙高市立新井中学校)

上越ブロックは、4つの教頭会・143名の会員で構成されています。今年度は、妙高市教頭会が主管となり、妙高大会の準備を進めています。8月10日には、指導者と提案者・支援者との打合せ会を行いました。各分科会の概要は、次のとおりです。

【第1分科会】子どもの発達に関する課題

「小中一貫教育による児童・生徒の社会性の育成」
～地域連携を基盤とした

八千浦学園の取組を通して～

堀川 正史（上越市立八千浦中学校）

【第2分科会】組織・運営に関する課題

「ともに歩む“地域の学校づくり”を

推進するための教頭の役割について」

～小中一貫教育を推進する中学校区の取組を核に～

藤本 高雄（柏崎市立半田小学校）

【第3分科会】教職員の専門性に関する課題

「中学校区連携による教職員の資質向上」

～5つの取組から～

増村 浩一（糸魚川市立西海小学校）

開催地の妙高市には、「妙高戸隠連山国立公園」が、平成27年3月に全国32番目の国立公園として誕生しました。また同じく3月に、北陸新幹線「上越妙高駅」が開業しています。会場の妙高市総合体育館（はね馬アリーナ）は、会議室などを完備した平成25年に完成した地上4階建ての施設です。妙高連山の雄大な景観や新たな地域づくりの取組の中で、教頭としての研修を深める機会となります。

妙高市教頭会は11名で構成されており、昨年度から準備を進めてきています。大会当日は、近隣の上越市教頭会会員の援助を受けながら、充実の大会を目指して主管いたします。事前にお届けする大会要項を熟読いただくとともに、当日の提案発表・質疑応答やグループ討議が主体的に実施できますように、会員一人一人の積極的な参加をお願いいたします。



中越ブロック 研究大会

中越ブロック研究大会事務部部长

結城 義則

(燕市立吉田中学校)

今大会は、燕市西蒲原郡小中学校教頭会、三条市小中学校教頭会、加茂市・南蒲原郡小中学校教頭会、見附市教頭会の県央地区4つの教頭会が主管を務めます。よろしくお願いたします。

燕市は平成20年9月に教育立市宣言をしました。第十期研究主題を受けたサブテーマ「生涯にわたって能動的に学び続ける子どもを育む学校教育（二年次）」について、下の5つの分科会を設定し、燕の地で熱く協議されますことを願っております。各分科会の概要は以下のとおりです。

皆様の参加を心よりお待ちしております。

【第1分科会】教育課程に関する課題（中）

「めざす子ども像にせまる小中連携のための
教頭の役割について」

指導者 多田 茂 様（中越教育事務所指導主事）

提言者 和田真理子（加茂市立須田中学校）

【第2分科会】子どもの発達に関する課題

「小中一貫教育における児童・生徒の

社会性育成へ向けた教頭の役割」

指導者 田邊 寿夫 様（中越教育事務所副参事）

提言者 馬淵 史子（三条市立栄北小学校）

【第3分科会】組織・運営に関する課題

「不登校の未然防止に向けた児童生徒の社会性を

育成するための小中連携と教頭の役割」

指導者 佐藤 裕之 様（中越教育事務所指導主事）

提言者 西本 直史（長岡市立石坂小学校）

【第4分科会】教職員の専門性に関する課題

「教員の主体的な取組を促す職員研修」

指導者 小林 徹哉 様（中越教育事務所副参事）

提言者 五十嵐 悟（魚沼市立宇賀地小学校）

【第5分科会】教頭の職務に関する課題

「学校の危機管理対策と教頭の役割」

指導者 山岸 一郎 様（中越教育事務所指導主事）

提言者 桑原 東郎（南魚沼市立藪神小学校）

県教頭会ブロック研究大会に向けて



下越Bブロック 大会に向けて

五泉市小中学校教頭会副会長

大川 正 史

(五泉市立五泉中学校)

今年度のBブロック大会では、五泉市小中学校教頭会は「庶務部」としてお手伝いをさせていただきます。

大会に参加される方々だけでなく、準備に早くから来ていただく開催地区の教頭先生方にも、居心地のよい状態で当日の運営をしていただければと考えています。

五泉市の教頭会で割り振りした業務以外にも、互いに穴を埋め合うチームワークで当日を迎え、「何か困ったことがあったら庶務部に頼めばいいさ」と言われても大丈夫なスタンスでいたいものだと思います。

ところで、学校現場には、より組織的な活動が求められています。そうした現在、私たち教頭の役割はその実効性が問われる時代です。教頭同士のネットワークを生かして、他に学びながら、よりよい方法を常に自校の組織マネジメントに反映させていきたいものです。

このBブロック大会がその一助になればと考えて、大会の準備をしています。

そういった意味で、この度、Bブロック大会の準備で何度か実行委員会に参加させていただいた際には、たいへん刺激を受けました。

実行委員長、副委員長、事務局長の目的意識の高さとリーダーシップがすばらしく、各部からの意見や要望を適切に処理していらっしゃいました。4月当初は見えなかった研究大会の全体像も、実行委員会の回を重ねる毎に明確になり、連携・協力のすばらしさを目の当たりにしました。

それらをリードする先輩の教頭先生方を見るにつけ、自分もそうなりなたい、そうならねばならないなと思います。準備にはそれなりの煩瑣な仕事もありますが、それ以上に貴重な体験をさせていただき、勉強になったなあと考えています。感謝の気持ちで当日までの準備と運営にあたりたいと思います。



県教頭会ブロック大会に 向けて(下越Aブロック)

佐渡市小・中学校教頭会研究部長

若 狭 陽 一

(佐渡市立新穂小学校)

今年3月にオープンしたばかりの「あいぼーと佐渡」をメイン会場に、新潟市と佐渡市の会員が集います。各分科会の概要は、以下のとおりです。

【第1分科会】組織・運営に関する課題

提言者：新潟市立濁川小学校 高島 純

支援者：新潟市立葛塚小学校 門倉 純一

指導者：下越教育事務所 加藤雄一郎 様

防災教育の推進にあたり、学校防災マニュアルをどのように推進したか、教頭としてどのように関係機関との連携に取り組んだかについて提言します。

【第2分科会】子どもの発達に関する課題

提言者：新潟市立山潟中学校 中林 秀樹

支援者：新潟市立葛塚中学校 下村 佳之

指導者：新潟市教育委員会 齋藤いずみ 様

インクルーシブ教育システム構築に向けて、特別な支援を必要とする児童生徒の教育の場の充実が求められています。これからの特別支援教育の充実に向けて取り組むべき教頭としての役割を、通常の学級における特別支援教育と交流活動の視点から提言します。

【第3分科会】教職員の専門性に関する課題

提言者：佐渡市立新穂中学校 藤井 衛

支援者：佐渡市立赤泊中学校 雑賀 真澄

指導者：佐渡市教育委員会 本間 辰彦 様

「キャリア教育・佐渡学」を充実させるには、教職員のコーディネート力が不可欠となります。教頭として、教職員が持ち前のコーディネート力を発揮できるような取組にどう関わればよいか4つの観点(研修の工夫、講師・関係機関等との連携、主任層との連携、授業改善)から提言します。

佐渡市小・中学校教頭会は、これまで実行委員会や事前打合会を8回開催し、準備を進めてきました。当日は、活発なグループ協議を目指します。

全公教静岡大会参加報告



第57回全国公立学校教頭会研究大会 静岡大会に参加して

本橋 孝司
(柏崎市立北条小学校)

大会主題は「豊かな人間性と創造性を育む学校教育」、キーワードは「生き抜く力・絆づくり」、サブテーマは「郷土を愛し 人との関わりを大切にし 夢にはばたく子どもの育成」でした。

1日目の全体シンポジウムでは「人との関わりが豊かな人間性を育む」「夢をかなえた人の話よりも普通に生活している人の話を聞くことも大切」との話が印象に残りました。また、フリーアナウンサーの平山佐知子氏の話も心に残りました。平山氏は、高校生になるまで、自身の低い声をコンプレックスに感じ、人前で話すことが苦手だったそうです。しかし、高校生の時、担任から全国大会に出場したサッカー部のリポーターを頼まれたことをきっかけに自分と向き合うことを決意し、「今日よりも明日へ」を心がけたことで気がついたら今の立場になっていたと語っていました。

2日目は、8つの分科会に分かれて討議が行われました。私は、「教育環境整備に関する課題」の第3分科会に参加し①地域との連携による教育活動と教頭の役割②学校・家庭・地域と連携した「特色ある学校づくり」を目指して③学校安全における教頭の職務の3つのテーマについて、8人のグループで協議しました。北海道、福島、東京、岐阜、愛知、大阪、徳島の教頭（副校長）と意見交換することで他の都道府県の様子や取組を知り、教頭の役割の重要性を改めて実感することができました。

3日目は、「歴史に学ぶ補佐役の役割～徳川家康とその家臣団を通して～」と題して静岡大学の小和田哲男名誉教授から講演をお聞きすることができました。将軍・武将の補佐役の仕事ぶりや校長の補佐役である教頭の仕事を重ね合わせながら、名補佐役の在り方について教えていただきました。

全国各地で教頭・副校長が日々奮闘していることを直接聞き、明日からの職務に向けて励まされる研修でした。



子どもに応じた適切な支援で 夢に向かって羽ばたける子どもに 第57回全公教研究大会静岡大会報告

大森 亨
(十日町市立馬場小学校)

「豊かな人間性と創造性を育む学校教育」の研究主題のもと「郷土を愛し、人との関わりを大切にし、夢に羽ばたく子どもの育成」をサブテーマとした第57回全国公立学校教頭会研究大会静岡大会に参加させていただきました。たくさん勉強になりましたが、2日目の分科会の大阪大学大学院特任講師・和久田学さんの講演、演習が特に印象に残りました。和久田さんの講演は次のような内容でした。

日本にはニートが約60万人いるが、これは成人になって始まったのではなく、子どもの時に種が蒔かれ芽が出ている可能性が高い。様々な要因を改善することで減少できる。発達障害もその一つで、適切な合理的配慮を提供することが重要である。まず、指導者が自閉症、ADHD、LDを正しく理解し、適切に支援すること。発達障害を早期発見、早期支援をする。第一歩は理解し、当たり前の事を意図的に教えることだ。また、問題行動は誤学習と迫害体験の結果である場合がほとんど。ABC分析を活用し、先行条件をなくすような子どもの活動を用意する。感情のコントロールの仕方など合法的な解決方法を教えていく。インクルーシブ教育システムを導入するには正しい理解が不可欠。子ども時代に問題を解決すれば社会にポジティブな影響を与える。

【ABC分析表】

A先行条件	B行動	C結果
授業中ひまで仕方ない	教室内を歩き回った	おもしろい 注目を集めた 授業がつぶれた 叱られた
イライラする	先生をからかった	おもしろい 注目を集めた

発達障害の特性、先行研究や身近な実践から支援方法を学ぶとともに、発達障害がある子どもにいつでもどこでも適切な支援を行いつつ、支持的風土を作っていくことの必要性を感じました。

郡市教頭会ネットワーク



上越市教頭会の取組

上越市教頭会
会長 堀川 明 博
(上越市立上杉小学校)

上越市は、平成24年度から地域とともに学校づくりを進めるコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を市立の全小・中学校で実施しています。そして、本年7月31日、「全国コミュニティ・スクール研究大会 in 上越」が開かれ、北は北海道、南は鹿児島県まで全国各地から大勢の参加者を得て盛会裏に終了することができました。中でも、分科会での直東学園、直江津小学校、春日小学校、中郷中学校、城北中学校の発表は、どれもが充実したレベルの高い内容と高い評価を受けました。

また、平成26年、11月1日を「上越市教育の日」、11月を「上越市教育を考える市民の月間」として決めました。教育・文化団体をはじめ、市民の皆さんから教育に関心をもっていただき、学校、家庭及び地域が連携し、「夢や志をもち、たくましく生きる人づくり」を目指し、よりよい教育を推進する機運の醸成を図っています。

市教頭会は、8つのブロックに分かれ、それぞれの地域の特色を生かした教育の推進を目指して研修を進めています。ブロック単位で定例会をもったり、校長会との合同研修会を行ったりしているところや、学校事務共同実施に関連させ事務職との合同研修を行っているブロックもあります。このように、それぞれの実情に合った取組を進めているのが、上越市のよさであり特徴であると言えます。また、学校支援システム（通称スクールオフィス）が整備されており、市内の学校間の情報連携の質が高く、学校間の掲示板・回覧板システムや、教頭会MLなどにより、様々な情報を瞬時に共有できる環境にあります。

今後も市教頭会では、市校長会の指導のもと、小中一貫教育の推進、地域の活性化、次代を担う人材育成等に向け、各学校が主体的に創意工夫を重ねて進める「地域の特色を生かし、地域とともに歩む学校づくり」を牽引していきたいと考えています。



一人職としての力量を高め合う教頭会

見附市教頭会
会長 内山 晋
(見附市立見附小学校)

見附市内の学校に勤務する教頭は全13名です。内訳は、小学校8名、中学校4名、特別支援学校1名です。一人職の即戦力として即断即決を迫られる教頭の力量を日々高めることが課題です。

そのための強みが見附市教頭会に4つあります。第一の強みは、年間11回実施の定例教頭会です。前半は、見附市教育委員会各課からの指導があります。見通しを持って職務を遂行するための細かな情報提供が毎月行われます。後半の部では、見附市が推進する「共創郷育」を核とした各校の取組の情報が交換されます。時には、各校の挑戦的な取組内容に刺激される「切磋琢磨」の場でもあります。

第二の強みは、年2回の「移動教頭会」です。これは、市内の小学校と中学校に会場を移して行きます。通常の開始時刻より1時間程度早めに開催し、会場校の校長より講話を頂いています。学校の特色ある教育活動を進める上での学校経営戦略、学校の要職の教頭に求めること等、一段高い視野からの講話を頂いています。

第三の強みは、学校事務共同実施との強い連携です。喫緊の課題の一つである多忙化解消について、学校事務の観点からも検討しています。昨年度は、「学校事務経営計画」を策定し校務の見直しを図りました。今後は、教育活動の充実を図る上で、財務感覚の重要性についても研修を深めていく必要があると強く感じています。

最後の強みは、「顔が見える」教頭会です。見附市教頭会でも、年2回の親睦会があります。普段の「ロの字」の会議とは違う「顔が見える」雰囲気の中で絆を深めています。また、この会は、一人職としての教頭が、職務上の相談のために目の前の受話器に自然に手を伸ばす応援団になっています。

これが、総勢14名（サポーター役の市教委を含む）、新潟県のど真ん中の見附市教頭会の姿です。

郡市教頭会ネットワーク



支え合い、力を高め発揮する 阿賀野市教頭会

阿賀野市小中教頭会

安澤 たい子

(阿賀野市立堀越小学校)

阿賀野市教頭会は、小学校10名、中学校4名の教頭からなる組織です。水原小学校の六井和幸会長をリーダーとして、次のような活動に取り組んでいます。

1 定例会

毎月1回定例の会を開催します。市教委管理指導主事様からのご指導や研究会に向けた協議、研修会参加者の報告などに加え、様々な情報交換も行い、日々の職務遂行に役立てています。

2 組織と主な活動

事務局を中心に、会員は研修部と教養部に分かれ、それぞれの部会の活動計画を立てて進めています。

研修部では、研究大会への発表者を全員でサポートしています。昨年度は、下越Bブロックで水原中学校区の小中連携の取組について発表し、4中学校区が、教頭会としての関与を高める小中連携のあり方を見直すよい機会となりました。今年度は、昨年度までの研修の上に実践を重ね、さらに来年度の発表に向け、着々と準備を進めているところです。

教養部では、今年度、市生涯学習課長様をお招きして、「学校教育と社会教育の連携について」という演題でご講話をいただきました。秋には、笹神地区にある大豆加工体験施設での「豆腐作り体験」を予定しています。これまでも、地域の産業や文化の専門家に学ぶ研修を実施し、自らの体験を豊かにし、各校の教育活動の充実に役立てています。

私たち14名は、年度始めの校長・教頭合同歓迎会をその年度の初めての仕事として協力して行い、ここから1年間のお付き合いが始まります。教頭会の活動をとおして、互いの苦労や努力を理解し合い、いざというときには助け合い、とても頼りになる会員ばかりだと思っているのは、私だけではないと信じています。これからも、互いに声をかけ合い、阿賀野市小中学校の教育を推進していきます。



モットーは「オアシス」

佐渡市中学校教頭会

会長 小沼 泰 高

(佐渡市立相川中学校)

当会は、中学校13校と中等教育学校で構成されています。会員の生活根拠地は、佐渡、上越、中越、下越と全県に及びます。まさに離島にある当会ならではの特色と思います。組織を、研修、広報、庶務で構成しています。活動は、小学校教頭会との合同研修と当会単体の活動の二本立てです。単体の主な年間活動は、前期と後期の研修会と年報の発刊です。

今年度の新たな取組を紹介します。中等教育学校教頭先生の提案を受け、島内高等学校教頭先生との交流活動をスタートします。中学校は、小学校と高等学校とのHUB(ハブ)と言えます。小学校教頭先生とのつながりに加えて、高等学校教頭先生ともつながることで、入口(小学校)と出口(高等学校)双方向との連携を目指します。今後の取組について、参考になる情報や先進例をおもちでしたら御紹介ください。

次に、今年度の研究大会のPRをさせていただきます。下越Aブロックと関東ブロック大会で、当会の研究成果を発表します。教職員の専門性に関する課題について、キャリア教育の視点から報告します。佐渡市では、教育委員会はじめ行政を挙げてキャリア教育に取り組んでいます。下越Aブロックの開催地は佐渡です。Aブロック会員の皆様の御来島を、心よりお待ち申し上げます。

最後に、当会のモットーは「教頭のオアシス」です。教頭職の負担軽減は、当会でも課題の一つとなっています。学期に1回ほどの会合は、学校をなかなか空けられない教頭にとって、実に貴重な機会です。全会員で研修と親睦を深めています。この強いつながりの下で、昨年度に導入されたグループウェアの有効活用も推進したいと考えています。そして、顔が見えなくても、リアルタイムで互いに扶助をし合えるような新しいオアシスを、ネットの空間にも構築できたらと考えています。



職員を支えられる 教頭を目指して

糸魚川市立浦本小学校

松田 敬

4月に全校児童30名の小規模校に赴任した。新任教頭の私にとっては、学ぶことの連続であった。

朝校舎を巡視すると、校長は私より早く出勤して教室を見回っていた。教室を整頓し、床に箒を掛け、黒板を美しく整えている。そして、生徒指導の観点から教室巡視の必要性を私に説明された。私は納得すると同時に、自らの行動をもって職員を支える強い意志と深い愛情を感じた。

校長が管理職として日々大切にしてきたことには意味がある。それは、校長の日々の言動や職員に対する姿勢の中で感じ取ることができる。

学校は多忙を極め、学級担任を始め職員の負担が非常に大きくなっている。私は微力であるが、校長の姿に学びながら職員の立場で物事を考え、職員を支えられる教頭を目指して努力していきたい。



地域に根を生やして

長岡市立脇野町小学校

笠原道宏

大都市長岡にありながらも、脇野町小学校は自然に恵まれ、田園が広がるのどかな地域に位置しています。みしま西山連峰マラソンや全国丸太切り選手権など、地域の伝統的な行事も盛んで、子どもたちだけでなく住民の皆さんも熱い気持ちをもって参加をされています。顔を出すと「おお教頭先生！」と親しげに声をかけてくださるのも地域の特性です。人に温かい、本当に恵まれた地域に赴任させていただいたと感謝しております。

教頭という仕事は、大変やりがいのある仕事だと感じていますが、まだまだうまくいかないことも多いです。声には出しませんが「しまった！」と冷や汗をかいたことも何度もあります。まだまだ未熟ではありますが、諸先輩の皆様よりご指導をいただきながら学び、地域に根を生やして、子どもと学校のために貢献していきます。



大切にしたいこと

三条市立嵐南小学校

溝口英磨

教頭には、多岐にわたる業務があるが、とりわけ、教職員との信頼関係を深めることや教職員間の融和、人づくりを進めることが大切であると考えている。

その上では、命令や強烈な個性で、職員を動かすのではなく、個々の職員を信頼し、その資質能力に気付き、気付かせ、自主的に力を発揮させるようにしていきたい。

学校では、毎日、職員からの報告・連絡・相談が寄せられる。どんなに忙しいときでも、一度手を止め、話をしっかり「聴く」ことを心掛けている。ただ単に相手の言葉を「聞く」のではなく、相手の言葉の背景にある意味、相手の感情を積極的に「聴こう」と努めている。

積極的傾聴（アクティブ・リスニング）は、良好な対人関係づくりを深めていくことに、とても大切な要素である。



心温かな地域に赴任して

南魚沼市立後山小学校

中沢功

「おい、教頭さん。お茶ぐらい一杯飲んでいけて。」学区内で配り物をしている私を見つけると、地区の老人会長さんはいつも温かく声をかけてくださる。

新任の教頭として勤めさせていただいている後山小学校は、南魚沼市の特認校として、希望をすれば市内全域から通うことができる全校児童12名の学校です。地域の方々の「学校を存続させたい」という強い思いから平成22年度より特認校制度が始まり現在に至っています。

心温かな地域の方々、学校に協力的な保護者、教育に熱心な職員、そして、困ったときにいつも助けてくださる市教頭会の先輩方。多くの方々に支えられながら今があります。本当に感謝です。

子どもたちのために、そして、この地域への貢献のためにできることは何かということを常に考えながら日々努力をしていきたいと思えます。



継承と発展

新潟市立金津中学校

品田卓見

新潟市立坂井輪中学校より、新任で参りました。子どもたちの気持ちの良さ。協力的な保護者の皆様。温かい地域の方々。熱意にあふれ、子どもたちとの関わりを大切にする教職員。それぞれの良さが融合し、今の金津中の素晴らしさがあるのだと日々肌で感じています。

我が校の教育ビジョンには「学園金津～子どもたちは地域の宝～」という文言があります。金津は、豊かな自然と歴史、文化施設を有し、優れた知識や技能をもつ人々を多数輩出している地域です。人と人とのつながりが強くて温かい。有形無形の恩恵を受けながら子どもたちは生き生きと育っています。

この良さを継承し、さらに発展させていくことが私を含めた今年度の教職員の使命だと思っています。



これまでの半年間を振り返って

新潟市立大淵小学校

後藤和広

私が勤務する大淵小学校は、新潟市の郊外、阿賀野川のほとりに位置する、創立143年の歴史と伝統のある学校です。素直な子どもたち、明るく前向きな教職員、学校への協力を惜しまない保護者・地域の方々に囲まれ、教頭として仕事ができることを、とてもありがたく感じています。

4月に着任して以来、勤務校の校長先生をはじめ、市・区の教頭会の先輩方から本当に多くのことを学ばせていただきました。未熟な私を指導し、支えてくださる方々に感謝をしながら、日々、教職員や子どもたちと向き合っています。今後も、教頭として必要な資質・能力と技術を身に付け、高めていけるよう、そして、勤務校の歴史と伝統に新しいページを刻んでいけるよう、研鑽に励んでいきます。皆様には、これからもお世話になりますが、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。



美しい自然と熱く温かい人に囲まれて

村上市立上海府小学校

仙田満

上海府小学校は「夕陽が見える海辺の学校」と呼ばれています。西側には青く澄み渡る海。遠くには、佐渡や粟島、弥彦山。東側には美しい里山。どの窓からも絵になる風景が見渡せます。

年度当初、新しい環境で戸惑うことも多かったのですが、子どものために労をいとわない熱心な地域、保護者、職員に支えられて何とかここまで乗り切ることができました。運動会前のグラウンド除草には100名を超える参加者がありました。町づくり推進委員会とPTA共催のバーベキュー大会、学区を走る駅伝大会等でのご支援ご協力からも「上海府の子どもは上海府で育てる」との地域の強い思いや願い、学校への期待の大きさを感じ、身が引き締まりました。

教頭として学校にかかわる方々への感謝の気持ちを言動で伝えていきます。熱く温かい地域、保護者、職員とともに、明るく素直で、何事にも積極的に取り組もうとする27名の子どもたちの教育活動に全力で取り組んでいきます。



自問自答の毎日です

阿賀町立日出谷小学校

白澤道夫

「地域を一番知っている教頭になりなさい」「かゆい所に手が届く教頭になりなさい」現任校に赴任するにあたり、諸先輩方からいただいた数多くの激励の中で、常に心に留め置く言葉です。

極小規模校である当校にとって、地域との連携は欠かせません。私は、温かく親しみのある地域の方々とのつながりを、学校から地域に目を向けた教育活動への好機ととらえ職員に働きかけています。

また何気ない会話から、校長のビジョンや職員的情熱や願いに気付くことがあります。教頭として「もう少しなんだけれど」「これができたら」等の「かゆい所」にどれだけ実効性のある策を提案できるか。これまでの経験が試されていると感じます。

諸先輩からいただいた言葉の実現には程遠いのですが、校長の的確な指導と職員室の温かい雰囲気に感謝しながら日々自問自答する充実した毎日です。

特集 地域と協働し、ふるさとへの思いを高める キャリア教育 4泊5日宿泊体験活動



胎内市小中学校教頭会

小野沢 謙 一
(胎内市立中条小学校)

当校は、児童数460名、21学級(うち特別支援学級6学級)、創立143年を迎える歴史と伝統のある学校です。郷土愛を軸としたキャリア教育を教育活動の中核に据え、平成20年度より毎年第5学年が『4泊5日の宿泊体験活動』に取り組んでいます。

1 ねらい<取組の概要：H26より>

(1) 胎内市の自然、歴史、文化、産業等を活用する体験活動を通して、「ふるさと胎内市のよさ」を再発見し、地域を愛する心を育む。

(郷土への愛着<郷土愛>)

(2) 自分たちが住む胎内市での農家泊での地域の人々との交流を通して、主体的にコミュニケーションをとろうとする能力を培う。

(人間関係形成・社会形成能力<かかわる力>)

(3) 集団生活で互いに協力したり、自分の役割に責任をもって取り組んだりして、友達や自分のよさに気付き、互いに認め合う人間関係を築く。

(自己理解・自己管理能力<見つめる力>)

(4) 米粉や市の特産品等の開発に尽力する人々の思いや願いに触れる活動を通して、働くことの大切さ、苦勞、喜びを知るとともに、その生き方や考え方について自分の考えをもつ。

(キャリアプランニング能力<夢おこす力>)

2 期間

平成26年9月8日(月)～12日(金)<4泊5日>

3 宿泊先

- 胎内アウレックス館 (1・3・4日目泊)
- 胎内市内の農家 (2日目泊)



4 主な活動

(1) 共通体験活動

- 新潟製粉工場見学 ・米粉クッキング (パスタ) ・野草つみ草体験 (天ぷら試食)
- 浅野オリジナル米粉クッキング (プリン)
- ぶどう狩り
- 天体観測
- キャンプファイヤー
- 野外炊さん (米粉カレー)
- 胎内市の農業についての講演会



(2) テーマ別体験活動 (①「食」・②「自然」)

- ①
 - 米粉べえべえづくり
 - 米粉グラタンづくり
 - 米粉ピザづくり
- ②
 - 奥胎内ブナ林散策コース
 - 胎内平周辺散策コース
 - 樽が橋周辺散策コース



5 活動終了後

胎内市の特産品の一つである「米粉」について、子どもたちの追究活動が行われました。「米粉をもっと普及させるにはどうしたらよいか」等、地域の諸課題を自分事の課題として考え、主体的に課題解決を図りました。また、農泊や体験活動等でお世話になった方々を招いて学習発表会を行い、感謝の気持ちを表しました。

6 おわりに

「ふるさとを愛する子ども」は、地域にどっぷりとつかり、豊かな体験活動の中で育つことを実感しています。今後も「ふるさとを愛する子ども」を育てるために、学校、保護者、地域、そして、胎内市教育委員会と連携を図り、宿泊体験活動の内容をさらに工夫、改善していきたいと考えています。

随 想



本当に必要な環境を 創り出す教師に

小千谷市立東小千谷小学校

川 池 雅 樹

中央教育審議会は「これからの学校教育を担う教職員やチームとしての学校のあり方について」の答申の中間まとめの中で、教員に求められる資質能力に次のことを挙げている。一つは『使命感や責任感、教科や教職に関する専門的知識、実践的指導力、総合的人間力』等、教員としてこれまでも求められてきた不易の資質能力である。もう一つは、激しい社会の変化の中を生き抜く人材育成のために必要な『時代や社会、環境の変化を的確に把握し、適切な学びを提供していける幅広い力量』である。

前者の不易の力は指導者として欠かせない必須のものである。加えて、学習意欲や学びの深まりという点から、学びの質の向上を期待するには、後者の力も大いに必要である。言い換えれば不易の力と、変化に対応できる柔軟な力の両方を兼ね備え、目的に応じて使い分けられる指導者が求められている。

世界に通用する選手を育てているあるプロスポーツのコーチの話である。今ある能力をさらに一歩進めるには、指導者がもっている能力で教える従来のteachingに加え、潜在的な可能性を引き出すcoachingの要素を大切にしているという。教育界に置き換えればこれからの教育には、今までにはなかった新しい視点やテーマをもって、身の周りのあらゆる環境を模索し教育活動のステージや演出方法を創り出していく姿勢が不可欠であると考えられることができる。まさしく『適切な学びを提供していく幅広い力量』につながるものである。

以上のことを鑑み、まず私にできることとして、身近な今まで積極的にかかわることが少なかった環境（専門教科外の研修、違った職種の方との懇談会、地域行事への積極的な参加等）に身を置き、その中で見つけた多様な価値を職員に伝えていきたい。そして主体的・共働的に目標実現していく子どもたちに寄り添い、幅広い視野をもって適切な学びを提供できるよう、職員の後押しをしていきたい。



楽しい場所であるために

新発田市立佐々木中学校

森 谷 優 子

生徒会が新企画の「芸能祭」を打ちだし、全校生徒、職員に「パフォーマンスを披露しましょう！」と呼びかけた。縦割り男女混合で行うバレーボールの全校レクの後、さらに、お楽しみ会のようなものをしようということだった。来週から夏休み！という木曜日の放課後、体育館に全校生徒と職員が集まった。生徒のだし物は、劇、歌（ソロあり、デュエットあり）、ピアノ演奏、空手の演技まであった。続く職員も、お笑いコンビによるコント、バンド演奏、独唱…と負けていない。むし暑い体育館だったが、一気に楽しい雰囲気になった。トリだった職員バンドの演奏が終わると、会場は何とも言えない、あたたかな空気に包まれた。

翌日、毎日、玄関で生徒を迎えている養護教諭が「教頭先生、今日は全員が登校しました！」と笑顔で報告に来た。全校生徒68人全員が、普段と違い、遅刻も欠席もなく、定時の5分前には教室に入ったのである。

1学期の終業式を終えた午後、教職員全員でファシリテーションをした。テーマは「佐々木の子どもをさらに伸ばすためには!？」だ。補助教員、介助員、臨時用務手、勤務のない非常勤講師に至るまで、全スタッフがコーヒーとお菓子をつまみながら語り合った。ゆるいテーマでチェックインをした後は、一人一人がいろいろな話をしていった。会が終わっても話が止まらない。今度は会場を移して納涼会へ。そこで飲んだビールのおいしかったこと。芸能祭で結成したお笑いコンビは再びコントを披露していた。

自己肯定感が低いとされる日本の中学生だが、「自分を表現すること」が本当に大切だと感じる。教育課程の中で、生徒が自分を表現する場は、いろいろ用意されているのだが、フォーマルな場でない表現の場というのは意外と少ない。大がかりなものでもなくてもいい。社会的に認められる方法で、日常、学級で、時に、学年、全校で、フォーマルでない表現活動があってもいいと感じる。それは大人も同様だ。なぜか。

だって、学校は楽しい場所なのだから。

——では、そのために、わたしにできることは何だろう？

さまざまな思いを巡らしながら、今日も佐々木の穏やかな風に吹かれ、校舎を歩く。

新潟県小中学校教頭会
[事務局]
県教頭会ホームページ
全国公立教頭会ホームページ

〒950-0911 新潟市中央区笹口2丁目7-17 和田ビル2F
E-mail n-kyotoh@crest.ocn.ne.jp TEL (025) 244-8225
http://kenkyoto.ngt.ed.jp/ FAX (025) 244-5060
http://www.kyotokai.jp/